

8月23日(金) シンポジウム第2室(教養部E201)

「なにびとも民族の言語と文化ゆえに、法の保護を平等に受ける権利を否定されることはない。」州レベルでは、イングリッシュ・プラスという運動がさかんになっている。すなわち、「アメリカの国益は、国民が英語とその他の言語を獲得する機会を十分に与えられたときに、はじめて守られる」という主張である。

現状をこのように認識すると、日本人によるアメリカとアメリカ人を対象とする異文化理解と異文化コミュニケーションの基本的課題は、多民族多文化多言語社会の構造と機能を社会統合モデルとして把握することである。このようにしてはじめて、多元的複合的文化の概念が明確になるであろう。今回の発題では、以上のテーマを考えるために、いくつかの観点を提供したい。

「情報提供を目的とする」と「人間関係の樹立を目的とする」文化教育

芝田 征二

文化も、ことばと同様に広義の機能範疇の一つであるコミュニケーションをする役割をもっている。コミュニケーションをする役割は、(1)情報の提供を目的としたもの(Transactional)と(2)人間関係の樹立を目的としたもの(Interactional)に分けることができる。

トランザクショナルな文化は情報を提供し、また概念的なことを伝えたり、本格的な交渉／話し合いに入るかどうかを決めるまでの文化をいう。アイ・コンタクト(eye contact)やスマイル(smile)等は英語圏における例である。

インターアクショナルな文化は人間や社会関係の確立および維持を目的とし、相互間の意味の交換に重要な意味をもつ。会話の開始およびその維持には、話し手と聞き手の間にある一定の関心が樹立されなければならない。関心を表すものとして愛情や親しみなどを表す身振り行為がある。例えばハッキングやボディ・タッチングなどは信頼関係がどれだけ樹立してるかを知るバロメータである。

しかし、英語を外国語としての授業ではトランザクショナルな文化学習に多くの時間がさかれているのが現状である。これでは相互関係の樹立および促進のための文化教育とはいえない。このような環境で学習された「コミュニケーション」方法論に基づく文化学習は自然な会話を促進する助けになるというよりは、むしろかなりの障害になるか、誤解を生みやすい。